

## 長寿対応型サッシの仕様等にかかわる調査

正会員 ○ 森 健\*1

佐藤勇一\*2

直井英雄\*3

## 1. 背景及び目的

本格的な高齢化社会を迎え、高齢化、加齢化対応を考慮した安全で快適な住環境の確保・整備が望まれている。財団法人ベターリビング（以下、BLという。）は、よりよい住宅部品を認定し普及させることにより住宅の質の向上等に寄与することを目的にBL制度を運営しているが、上記の状況を踏まえ、高齢者対応型浴室ユニット、補助手すり等、長寿社会に対応した部品の認定を行ってきた。今後、他の部品についても長寿社会に対応した部品が望まれるが、住宅には欠かせないサッシもその一つであろう。

本調査は、BL部品（BLが認定した部品）を主に使用している公共住宅建設事業主体の長寿社会対応の住宅、サッシ等に関する考え方について把握し、長寿対応型サッシ（仮称）のBL認定基準検討のための一資料とすることを目的としたものである。なお、今回の報告ではサッシの仕様に係る部分、特に下枠、把手、開閉力に係る部分について報告する。

## 2. 調査の方法

## (1) 調査方法

郵送によるアンケート方式で行った。

## (2) 調査対象

公共住宅建設事業の円滑な推進を図るため、都道府県、政令市、都道府県住宅供給公社、住宅・都市整備公団等により組織されている公共住宅事業者等連絡協議会があるが、その会員117の事業主体を対象に行った。

## (3) 調査日程

平成8年9月6日に郵送し、締め切りを平成8年9月24日とした。

## 3. 結果及び考察

## (1) 回収結果

回収票数は98であった。（回収率：84%）

## (2) 引違戸（掃き出しタイプ）の下枠の断面形状

「一般型のものでよい（段差50mm程度）」「車椅子が通れる程度（段差15mm程度）」「下枠フラット（段差0mm）」という選択肢を設け、引違戸の望ましい

下枠断面形状は？という問の結果は図1のとおりである。集計にあたり「車椅子が…」と「下枠フラット」の両方を選んだ事業主体が6あったので別項目で集計した。

「一般型のものでよい」とする回答はわずかに5%であり、長寿社会対応のサッシとして下枠については何らかの対応が必要であることが伺える。その対応として「車椅子が…」の回答が「下枠フラット」を大きく上回っているが、「下枠フラット」を望んでいる事業主体も3割と決して少なくない。単に使用上のことを考えれば下枠フラットが一番望ましい姿と思われるがサッシの水密性やコストなどの面から「車椅子が…」としたことも十分に考えられる。水密性等について現状のサッシと同等以上ということが確認できれば下枠フラットの要望が高くなることも考えられる。

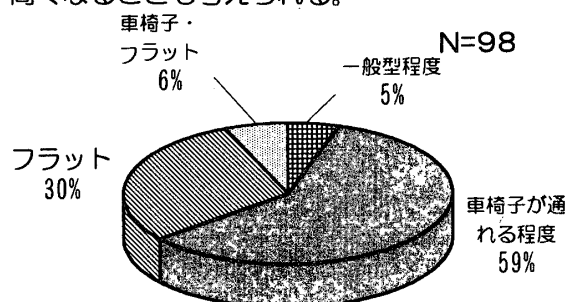


図1 引違戸の望ましい下枠断面形状

## (3) 引違窓の望ましい引き手

引違窓（腰窓タイプ）について室内外の障子のそれぞれ室内側、室外側の計4ヶ所に、どのような形状の引き手がよいか？という問に対する結果は図2のとおりである。

引き手を必要とする回答が室内側は7割近いのに対して室外側は5割程度であることが特徴的である。これは当然の結果ともいえ窓タイプでは人の出入りが行われなため、室外側で開閉が行われなからである。そのため、室外側は長寿対応サッシであっても配慮することはないといえる。

室内側の引き手の形状については、室外側障子、

室内側障子とも彫込み引き手を望む割合が半数近くを占めている。使用勝手からいえば、彫込み引き手よりも把手の方が優れているといえるが、窓タイプということで開閉で重たいと感じることも少ないため、彫込み引き手の割合が高かったと思われる。しかしながら、室内側障子の室内側は把手を希望する割合が3割近くあることは見逃せない。

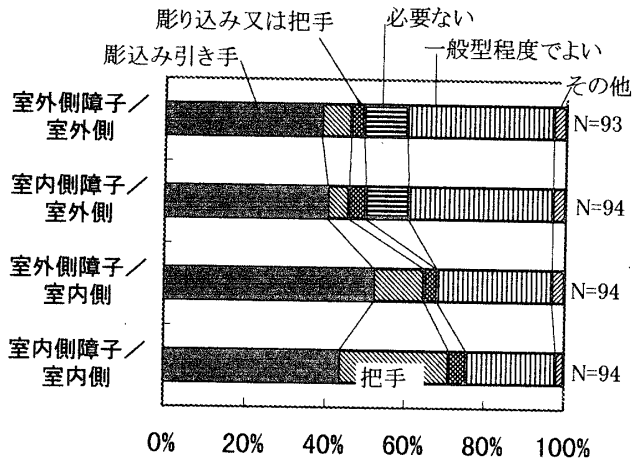


図2 引違窓の望ましい引き手

(4) 引違戸の望ましい引き手

引違戸についても(3)と同様の質問を行った。その結果は図3のとおりである。

どの個所についても7割以上はなんらかの形で引き手が必要であることが伺える。室外側と室内側で見ると室内側の方が若干引き手を必要とする傾向が強い。また、引き手の形態については室外側は彫込み引き手を希望する割合が高く、室内側は把手が占める割合が高くなっている。これは、引違戸ということでバルコニー等室外に出て開閉を行うこともあるが、大抵の場合は、室内において開閉を行う表れともいえる。また、使用勝手のみを考えれば全てに把手がついていることが望ましいが、コスト等を考慮されたとも考えられる。

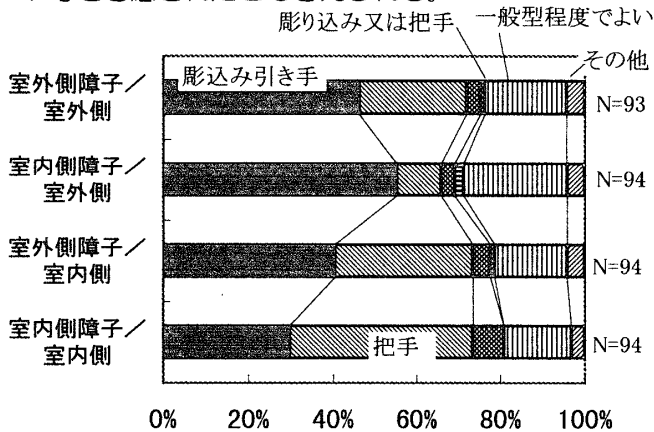


図3 引違戸の望ましい引き手

(5) BLアルミサッシの開閉力について

現在BLで認定を行っているアルミサッシの開閉力について問題がないかという問に対しての結果は図4のとおりである。

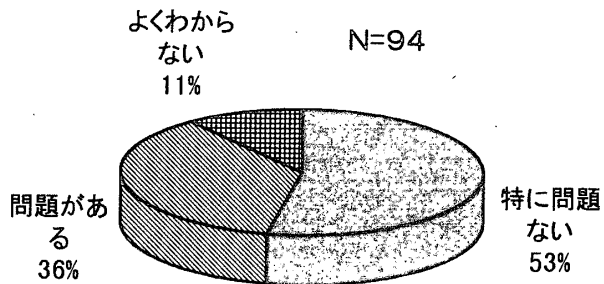


図4 BLアルミサッシの開閉力について

「特に問題ない」としている回答が半数以上をしめているが、「問題がある」とした回答が36%もあった。どのような点が問題であるかは次のとおりである。( )内は票数。

- ・ペアガラスを使用した場合 (9)
- ・網入りガラスを使用した場合 (8)
- ・大型サッシの場合(開口部が大きい場合)(6)
- ・高齢者が使用する場合 (5)
- ・防音サッシの場合 (1)
- ・室内が負圧になった場合 (1)

開閉力について「問題がある」とした具体的理由として「ペアガラスを使用した場合」等ガラスが重くなることによる理由が大半を占めており、サッシそのものが原因と思われる理由は少ない。今後、複層ガラス入りの断熱型サッシの普及が重要になってくるが、長寿対応型は工夫が必要になってくると思われる。また、「高齢者が使用する場合」について開閉力が問題であるといった回答は、今後の認定基準作成にあたって十分に考慮しなくてはならない。ただし、これらの開閉力の問題については把手等を取り付けることにより解消されることも考えられる。

4. おわりに

今回のアンケート結果等を踏まえ現在、BL長寿対応型サッシの認定基準を作成中です。今後、長寿対応型サッシがBL部品として供給されていくが、高齢化、少子化等の社会情勢を見ればその普及が望まれており、関係各位の協力をお願いいたします。

最後にこの調査を進める主体となったBLに設置された窓系部品企画委員長長寿対応型サッシWGの委員の方々及びアンケートにご回答頂いた公共事業発注体の方々へお礼申し上げます。

\* 1 財団法人ベターリビング Center for Better Living  
 \* 2 株式会社汎建築研究所 Han Architects and planners Inc.  
 \* 3 東京理科大学工学部建築学科教授 Dept. of Architecture, Faculty of Engineering Science Univ. of Tokyo.